

# 平成 27 年度 医療問題特別委員会行政視察報告書

平成 28 年 1 月 22 日

1. 日 程 平成 27 年 11 月 12 日（木）・13 日（金）

## 2. 視察先及び視察項目

### （1）公立置賜総合病院

- ・病院の概要について
- ・サテライト医療施設との連携について
- ・地域との連携について

### （2）公立置賜長井病院

- ・病院の概要について
- ・置賜総合病院との連携について
- ・地域との連携について

## 3. 視 察 者

委員 長 樋 口 浩 二	副委員 長 亀 山 重 光
委 員 浅 野 一 明	委 員 茂 岡 明 与 司
当 局 長 谷 川 健 一	健康課課長補佐
随 行 吉 田 和 実	議会事務局主査

一行 6 名

### 【山形県置賜地域の概要と病院再編の経緯】

公立置賜総合病院及び公立置賜長井病院が設置されている山形県の置賜地方は、山形県の南部に位置し、米沢市、南陽市、長井市、高島町、川西町、小国町、白鷹町、飯豊町の 3 市 5 町で構成される地方です。面積は約 2,497 km<sup>2</sup>と、佐賀県全域とほぼ等しい広大な面積を有し、人口は平成 22 年度の国勢調査で 226,989 人となっています。同地方には山形県内に 4 つある二次保険医療圏 の 1 つとして、置賜二次保健医療圏が設定されています。

平成 12 年に公立置賜総合病院が設置される以前は、この地域に高度急性期医療を提供する医療機関がなく、ICU（集中治療室）も未設置という状況でした。その一方で、地域の自治体病院では、建物や設備の老朽化対策などが課題となっていました。市立や町立の施設では、単独で整備することも難しいという状況に置かれていました。そこで、山形県と置賜地域の市町によって、この地域に高度・救命医療を担う基幹病院の設置と、既存病院との役割分担による医療の提供という新しい地域医療の体制を作る検討が始まりました。

平成 7 年に、長井市立総合病院（病床数 483 床）と南陽市立総合病院（病床数 251 床）、川西町立総合病院（病床数 98 床）、飯豊町国民健康保険診療所（無床）を再編して、新たに基幹病院となる公立置賜病院を設置し、既存の医療施設をサテライト医療施設とする計画がまとまりました。

平成 12 年 11 月 1 日、公立置賜総合病院（病床数 520 床）が開院し、公立置賜長井病院（病床数 110 床）、公立置賜南陽病院（病床数 50 床）、公立置賜川西診療所（無床）、飯豊町国民健康保険診療所（無

床)をサテライト医療施設<sup>1</sup>とする現在の医療提供体制となりました。

公立置賜総合病院が基幹病院として高度・救命医療を担い、サテライト医療施設が初期医療、慢性期医療を担うとする試みは全国に先駆けて実施され、自治体病院の広域再編モデルとなっています。

表 1. 置賜地域の病院再編の概要

再編前	再編後 (現在)
	公立置賜総合病院 23 診療科 (一般 476 床、感染症 4 床、精神 20 床、救命救急センター 20 床、合計 520 床)
長井市立総合病院 16 診療科 (一般 382 床、精神 81 床、伝染 20 床、合計 483 床)	公立置賜長井病院 10 診療科 (一般 50 床、精神 60 床)
南陽市立総合病院 13 診療科 (一般 196 床、精神 55 床)	公立置賜南陽病院 10 診療科 (一般 50 床)
川西町立総合病院 6 診療科 (一般 98 床)	公立置賜川西診療所 5 診療科 (無床)
飯豊町国民健康保険診療所 (無床)	飯豊町国民健康保険診療所 3 診療科 (無床)
病床数 832 床	病床数合計 680 床

(1) 公立置賜総合病院 (視察日：平成 27 年 11 月 12 日)

① 病院の概要について

公立置賜総合病院は、長井市、南陽市、川西町、飯豊町の 2 市 2 町と山形県を構成団体とする置賜広域病院組合の中核病院です。置賜二次保健医療圏の基幹病院として救命医療を担う救命救急センターを併設し、また、地域がん診療連携拠点病院として地域住民に対して高度・専門医療を提供するとともに、災害拠点病院として大規模災害発生時に緊急派遣する災害派遣医療チーム (DMAT) を編成するなど有事対応への備えも行っています。

[所在地及び施設規模]

山形県東置賜郡川西町大字西大塚 2000 番地 敷地面積：約 100,000 m<sup>2</sup> 総床面積：約 41,600 m<sup>2</sup>

[診療科目]

内科・神経内科・消化器内科・循環器内科・小児科・精神科・外科・消化器外科・呼吸器外科  
整形外科・脳神経外科・心臓血管外科・皮膚科・形成外科・泌尿器科・産婦人科・眼科・耳鼻咽喉科  
リハビリテーション科・放射線科・歯科口腔外科・麻酔科・救急科 以上 23 診療科

[病床数]

520 床 内訳 一般病床 476 床<sup>2</sup>、第二種感染症病床 4 床<sup>3</sup>、精神病床 20 床  
救命救急センター 20 床 (ICU・CCU 8 床、HCU 12 床<sup>4</sup>)

[その他の診療機能]

人工透析 18 台、手術室 8 台 (一室は BCR 対応<sup>5</sup>)、未熟児室 3 床、外来化学療法ベッド数 12 床、BCR 対応病室 2 床、第二種感染症病床 4 床、外来処置室 (処置・点滴等のスペースとして利用)

② サテライト医療施設との連携について

置賜地域は、山形県内でも高齢化が進んだ地域です。地域の方々の必要に合わせて医療を効率的に提

供するため、公立置賜総合病院とサテライト医療施設では、公立置賜総合病院が高度急性期医療を担い、慢性期・回復期医療は各サテライト医療施設で行うという医療機能の分担を行っています。

公立置賜総合病院とサテライト医療施設では共通の診察カードを使用し、さらに電子カルテ等を用いた情報ネットワークの構築による患者情報の共有を行っており、患者さんの利便性に配慮した運営が行われています。また、一部の診療科では、公立置賜総合病院の医師がサテライト医療施設において診察を行うなど、継続した治療を行うことも可能となっています。

### ③ 地域との連携について

公立置賜総合病院では、地域のみなさんにとって良質で安全な医療を提供するため、地域の病院や診療所と連携して診療が行われています。

専門的・高度な治療や急性期の医療を公立置賜総合病院が担当し、その他の定期的な診療や投薬等は地域の病院や診療所で担当してもらうという地域連携を推進しており、地域医師会の方々とのネットワークの構築も進められています。

平成 23 年 6 月には地域医師会等の診療機関から公立置賜総合病院の診療情報（投薬、検査結果、画像情報など）を参照可能にする「OKI-net（置賜地域医療情報ネットワークシステム）」や、患者紹介をインターネット上で予約可能とする「患者紹介予約システム」を構築して、疾病の予防や早期発見、そして切れ目のない適切な医療を効率的に提供する地域完結型医療の提供に努められています。

平成 23 年 12 月からは、地域医療支援病院として病診・病病連携の中核的役割も担っています。

## (2) 公立置賜長井病院 （視察日：平成 27 年 11 月 13 日）

### ① 病院の概要について

前身である長井市立総合病院の歴史は古く、昭和 14 年、近隣の 1 町 4 村により長井公立病院として開設されました。昭和 29 年の町村合併で長井市が市制施行した際に長井市立病院に改称され、昭和 38 年に長井市立総合病院に改称されました。昭和 40 年代前半に主な病院施設が新築された後も、随時増築が重ねられ、病床数 483 床をもつ地域の中核病院として整備が進みました。

平成 12 年 11 月に置賜広域病院組合の運営に移管し、公立置賜長井病院として、公立置賜総合病院のサテライト医療施設となり、地域の初期医療、慢性期医療を担っています。

#### [所在地及び施設規模]

山形県長井市屋城町 2 番 1 号 敷地面積：約 17,500 m<sup>2</sup> 建物延床面積：約 16,250 m<sup>2</sup>

#### [診療科目]

内科、整形外科、耳鼻咽喉科、外科、眼科、精神科、婦人科、リハビリテーション科、人工透析室、脳神経外科 以上 10 診療科

#### [病床数]

110 床 内訳 一般病床 50 床、精神病床 60 床

#### [その他の診療機能]

人工透析 23 台

## ② 置賜総合病院との連携について

医療に関する主な連携機能は、公立置賜総合病院の項で記述した通りです。特に人工透析において置賜総合病院から定期的に医師の派遣が行われるなど連携が深くなっています。ただ、長井病院では医師の配置を置賜総合病院に頼らざるを得ず、医師の充足に困難があるとされていました。長井病院で定年退職された前院長や前々院長にも嘱託医として診療にあたってもらうことで、現在の診療体制が維持されています。

## ③ 地域との連携について

長井病院では平成 12 年にサテライト化された際に救急告示が廃止<sup>6</sup>され、初期医療や慢性期医療に特化しています。そのため、一般病床入院患者の平均在院日数は再編前の平成 11 年度 20.0 日であったものが、再編後の平成 13 年度は 31.2 日、平成 25 年度では 40.1 日に伸びています。病床の稼働率も平成 14 年度以降 90%を超えることが多く、ピーク時の平成 23 年度では 95.4%となっていました。患者さんが安心して退院できるよう相談等を行っており、平成 25 年度は稼働率 88.4%となりましたが、病床の運営には苦労もあるとされています。

## (3) 所感

公立置賜総合病院は、平成 12 年に自治体病院の統合再編により設立された病院で、全国に先駆けてサテライト方式を採用した置賜広域病院組合の基幹病院で、オープン当時患者は 1 日 1200 人くらいが通院し多忙を極め、患者を減らすために努力し、300 人くらいの患者をサテライト病院へ廻し、現在順調に推移している。

サテライト病院である長井病院は、再編前は 483 床（一般病床 382 床、精神病床 81 床、伝染病床 20 床）あったが、再編後は、病床数は 110 床（一般病床 50 床、精神病床 60 床）になり、手術を必要とする患者や重篤患者は総合病院に送る、患者は回復期に入るとサテライト病院に帰って来る。また、総合病院と地域医療の関連で、開業医が総合病院の施設を使って自分の患者を診察するという。

総合病院とサテライト病院との連携については、開院当初から電子カルテシステムを利用し、サテライト医療施設や地域の医療機関とネットワークの構築により患者情報を共有している。

私達が暮らす県央地域に基幹病院が早く建設・オープンすることを願うと共に、県立加茂病院の早期開院を望みます。

視察に同行して頂いた諸氏に感謝申し上げます。

以上

<sup>1</sup> 飯豊町国民健康保険診療所は飯豊町立の施設であって、管理運営のみ置賜広域病院組合が受託している。そのため、同診療所は厳密には公立置賜総合病院のサテライト施設ではなく、公立置賜総合病院の協力医療施設である。

<sup>2</sup> 行政視察に訪れた平成 27 年 11 月 12 日現在、一般病床の内 26 床分は稼働を休止していた。看護師不足が主な原因という。

<sup>3</sup> 第二種感染症指定医療機関として 2 類感染症患者〔急性灰白髄炎(ポリオ)、結核、ジフテリア、重症急性呼吸器症候群(SARS)、鳥インフルエンザ(H5N1)]を受け入れる。

<sup>4</sup> ICU (Intensive Care Unit) 集中治療室。CCU (Coronary Care Unit) 冠疾患集中治療室、特に心臓血管系の疾患を抱える重篤患者を対象とする。HCU (High Care Unit) 高度治療室、ICU よりもやや重篤度の低い患者を受け入れる治療施設で、ICU と一般病棟の中間の役割を担う。

<sup>5</sup> BCR (Biological Clean Room) 無菌病室。

<sup>6</sup> 置賜広域病院組合を構成する地域（長井市、南陽市、川西町、飯豊町）に救急告示病院は公立置賜総合病院のみ。周辺に夜間診療を行う施設も無いため、救命救急センターが時間外診療所、休日夜間診療所状態になっているのが現状で、混雑する原因となっている。